

ゆずりは通信

第35号 平成31年2月1日

(年2回発行)

発行：ゆずりはの会事務局

電話：0565-35-7182

Eメール：takekaki@hm8.aitai.ne.jp

ホームページ：

<http://www.hm9.aitai.ne.jp/~warabino/>

ゆずりはの会 平成30年7月定例会

7月11日(水) 午後7時～ 福祉センター 34会議室 9人が出席

内容

1. 認知症のテスト

栗山さんが、認知症の研修を受け、認知症テストについて学んだ。

今回、出席した会員がこのテストを受けた。結果の解析には、相当の時間がかかるので、次回に説明が行われる。

2. 介護サービスの自己負担額がアップする。

今までは、1割か2割だったものが、所得の多い人は3割負担となる。

一方で、毎月の負担額には上限が決められているので、ものすごく多い額にはならない。

3月14日(水)午後7時～ 福祉センター 34会議室 10人が参加

ゆずりはの会 平成30年9月定例会

9月12日(水) 午後7時～ 福祉センター 34会議室 9人が参加

内容

新聞からのいくつかの情報提供です。

1. 「がん哲学外来」の樋野(とい)興夫教授が、日本対がん協会から、朝日がん大賞を受賞患者やその家族の悩みを聴き、心の悩みに寄り添う活動を進めてきた。

2008年、順天堂大学で始めた当初は、あまり理解が得られなかったが、だんだん賛同者が増えてきた。教授は呼び掛けています。「メディカルカフェ、あなたもやってみませんか」

2. 名古屋市の高校生グループが、同じ団体から、団体賞を受賞

代表は、中村航大さん(16歳)。

小学2年(7歳)の時に、脳しゅようを患う。そして14歳の時に再発した。このリハビリの時に、樋野教授と出会った。

同い年の友達3人と一緒に、名古屋の診療所の一角を借りて、初のカフェを開いた。

「がんを経験して再発をしても、こんなに元気だよと、治療している人にも知ってほしい。」

3. がんサイバー支援で全国を行脚した垣添忠生さん

国立がんセンターの元総長。自身も大腸がんとすい臓がんを患う。妻をガンで失う。患者や家族が必要とする情報をもっと届けたいと行脚を始めた。90 日で、3500 kmを歩き目的地に到着した。
「残された人生、自分の経験を世の中に還元してゆきたい。」

4. 豊田地域医療センター新棟起工

現在の病棟の東側に、地上 6 階、地下 1 階の新棟ができる、床面積は、16,400 平方メートルでほぼ倍増する。150床から190床に増える。
慢性期の患者への対応を重視し、リハビリ機能の充実で早期退院を促す。
「お年寄りに優しい医療を目指す」が掲げられ、高齢者医療、在宅医療支援、健康診断、救急医療、看護師養成の5大機能の充実に努める。

5. ファイブコグ検査の結果報告

認知症に近いかどうかを、調べる方法を、栗山さんが研修を受けて来た。
会員の皆さんで、7月の例会の時に、検査を実施してもらった。
その結果が、個人に配られ、どのように解釈するかの説明があった。
認知症を計る項目が5つある。注意、記憶、視空間認知、言語、思考、これに「手の運動」を加えた6項目について結果の値が伝えられた。低い場合は、どんな活動をすれば、鍛えられるかについて処方箋が示されている。

6. その他

新米「ミルキー・クイーン」が会員に配られた。栗山さんが特別に栽培している米です。
およそ10年前に実施した、自主映画上映会で残っていたお金を災害支援に寄付しました。
社協の理事会で報告があったそうです。

ゆずりはの会 10 月定例会

10月10日(水) 午後7時～ 福祉センター 34 会議 9人が参加

内容

1. 本庶佑氏がノーベル賞の医学生理学賞を受賞された。

免疫チェックポイント阻害剤:オプジーボを開発
がん患者で、手術、抗がん剤、放射線治療でも治らなかった人に、この薬は効果がある。
現在では、2~3割の人にしか効かない、副作用もあるので、注意が必要。
がんの治療法は、研究が日進月歩で進んでいるので、勉強しておきましょう。

2. 豊田地域医療センター (新聞記事)

在宅医療の充実を標榜している。その1施策として、訪問看護師養成機関を開設する。
在宅医療を担当する医師も増えて現在18名となっている。
リハビリにロボットを導入

3. ほっとかんに新館が完成

以下の事業を行う

- * 有料老人ホームの増設
- * 新規事業である「リハビリデイサービス」
- * 従業員の子供を預かる「どんぐり保育園」の新設

4. 医師:大鐘稔彦氏の紹介記事

雑誌:リビングウィルに掲載

- * 外科医として多くの手術を行い、メスをふるった。「孤高のメス」などの著作がベストセラーに。
- * がんの本人への告知を先駆的に行った。
- * 「安楽死か、尊厳死か」の本も出版、消極的安楽死を勧める。
- * 現在はメスをおき、淡路島で診療所を開いている。

5. 日本都市特性評価 (新聞記事)

都市戦略研究所が、72 都市を評価した。

豊田市は、財政、市民生活・福祉の部門が高い評価を受ける。一方で、観光や他地域との交流などは低い。

総合得点は、918.3 点で、全国で 14 位。ちなみに

総合順位		
総合順位	東京を除く都市	東京23区
1	京都市	千代田区
2	福岡市	港区
3	大阪市	中央区
4	名古屋市	新宿区
5	横浜市	渋谷区
6	神戸市	文京区
7	札幌市	台東区
8	仙台市	目黒区
9	茨城県つくば市	品川区
10	浜松市	江東区
11	金沢市	墨田区
12	広島市	豊島区
13	長野県松本市	世田谷区
14	愛知県豊田市	杉並区
15	静岡市	大田区

ゆずりはの会 平成 30 年 11 月定例会

11 月 14 日(水) 午後 7 時～ 福祉センター 34 会議室 11 人が参加

内容

* 講演会「長寿社会の未来」

大島伸一氏 元国立長寿医療センター総長

愛知県老人福祉大会での講演

日本は世界 1 の高齢国になったが、医療や介護など福祉の仕組みが追い付いていない。病院だけが対応するのではなく、地域全体で支える体制づくりが急務である。

* 「世界一やさしいレストラン」

10 月 14・15 日 ホガラカ エコフルタウン店にて「世界一やさしいレストラン」が開催された。認知症の人と一緒に働く レストランイベントで、間違えることを一緒に楽しみ、受け入れてくれる場所。そしていくつになっても新たなチャレンジができる街にしようとする試み。

* 子ども食堂

豊田市でも梅坪地区など 5～6カ所で始まっている。

市としてはもっと普及させようとしているようで、色々な地区で検討されている。

* 看取り士

柴田久美子氏(岡山県)が、提案して活動が始まった。

「自分が望む場所で、自分が望むように旅立ちたい。大切な人を幸せに看取りたい。」そんな思いで活動している。一人暮らしの人には、心強い。

各地で、養成講座が開かれているが、愛知県は少ない。

* カスタマーハラスメント

NHKクローズアップ現代で放送された。

顧客から受ける暴言などで、苦しんでいる人が多い。

暴言、威嚇、何回も何回もクレーム、権威的(説教)態度、長時間拘束など

何かの拍子に 突然切れてしまう人も多いようである。

ゆずりはの会 12 月定例会

12 月 12 日(水) 午後 7 時～ 福祉センター 34 会議室 9 人が参加

* 国際長寿センターの報告書の紹介

「日本の看取り、世界の看取り～終末期、みとりに関する国際制度比較」の一部を眺め
また、最期を病院などで迎えるか、自宅で迎えるかについて、いくつかの国の状況を調査した。
日本では、病院で死ぬ人の割合が圧倒的に多いが、イギリス、イスラエル、オランダ、韓国では、自宅での最後が相当数ある。

* 豊田署ボランティア連絡協議会 30 周年記念事業

さや佳 語りの会

平成 31 年 2 月 2 日 福祉センター

* 本「長生きしたけりゃ パンは食べるな」の紹介

パンは、小麦から作られるが、その成分であるグルテンが、体の不調を起こす場合がある
関心のある人は読んでみましょう。

* 高齢者の一人暮らしが増加

今後もますます増加してゆく。社会から取り残されてゆく可能性が高い。現在でも、その
くらしぶりについて、様々な例がみられる。

* ゆずりはの会

今は夜に開催しているが、夜は運転など危ない、昼間の開催に変更したらどうかとの提案が
あった。次回の会で話し合う